すずらんの一員、その人らしく活躍できる職場を目指して

市町村名：中標津町
町 人 口：24,005 人（H23.3.31 現在）
地域概況：　中標津とは、日本語の「中」とアイヌ語の「シペッ＝大きな川」に当て字した「標津」を組み合わせたものである。内陸性の気候で、夏の平均気温は 20℃前後、冬の平均気温はマイナス 10℃前後。積雪は、道内でも少ない方である。
（町 HP から引用）

1　取組のきっかけ・経過

高等養護学校卒業後の進路に向けての取組の中で・・・

当初は福祉的就労が予定となっていたが、本人、保護者の一般就労へのチャレンジという強い想いがあり、以前よりボランティア活動をしていた「別海厚生企業組合すずらん」の介護事業所（認知症対応型共同生活介護施設）に母親が相談をする。

「別海厚生企業組合すずらん」としてもボランティアではなく、雇用することに様々な戸惑いがあったが、前向きに検討するために、雇用に関して「障がい」についての学習を行うこととなる。

母親が相談支援事業所に依頼をして地元の相談支援センターの職員が勉強会を担当することとなる。

【職場体験実習受け入れ前学習会】　＊日勤職員の勤務終了後からスタート

平成 21 年４月　８日　第１回勉強会（障がいについて）
平成 21 年４月 22 日　第２回勉強会（雇用の際に気をつけることについて）
平成 21 年５月 27 日　第３回勉強会（障害者雇用制度及び高等養護学校から本人のことについて）

【工夫したポイント等】
〇事業所側の不安解消のために気軽な勉強会を開催
〇次の２点を事業所、母親、本人、学校と確認をする
・経過の中で雇用ができなくてもかまわないのでチャンスがほしいこと。
・実習を通して本人が本当に希望するかどうか確認をしたいこと。

2　受け入れにあたって。

職場体験実習　（平成 21 年８月 24 日～平成 21 年 10 月 21 日）を経て、本人が就職先として「別海厚生企業組合すずらん」を希望する。

・事業者内のミーティング等で職員の意識確認を行い内々定とする。
・高等養護学校と進路指導担当との打合せ実施。

【採用にあたり工夫した点】～すずらんの一員として長く勤めてもらうために～
≪勤務条件≫～・長く仕事が続けられるように短時間からスタート（9 時半～13 時半）
（学校の時に限りなく近いリズムでの雇用時間）
・雇用保険加入
≪仕事内容≫～・介護補助業務（利用者とのかかわりが持て、本人らしさがでるような場面設定。体操、レクレーションのリーダー、オセロなど）
・掃除（玄関掃除、モップがけ、ゴミ集め、ゴミ投げ（一番楽しみにしている仕事）、加湿器チェック、牛乳パックたたみ）
・茶碗洗い、洗濯ものたたみなど
≪工　　夫≫～・視覚的にわかりやすいスケジュール表の作成
・１日の業務を早出、日勤、遅出と担当を分担して明確化
・行事に対しては、スケジュールを渡し、担当と役割を事前に確認
・本人の好む仕事や得意分野の聞き取り
・振り返りのための日誌
≪家　　族≫～家族にも仕事の様子がわかるように連絡帳を準備

３　成果・効果

中標津町の事業所での雇用をきっかけに、隣町で運営している事業所でも雇用を開始した。

最初は、ボランティアでの受け入れからスタート。町直営の相談支援担当からの助言を受けて、ジョブコーチを活用して雇用を実現させた。

事業所として、中標津町での採用経験を活かし、本人が負担にならない時間での勤務、本人のストレングス（強み）を活かす仕事内容の提案などを関係機関などと調整して雇用まで至った。

【別事業所での採用に至るまで】～すずらんの一員として長く勤めてもらうために～
≪経　　過≫～・平成 22 年ボランティアとしての参加希望あり快諾
・平成 22 年８月、ミーティングにて就労を前提とした実習を実施することに。ボランティアと仕事との違いについて意識の確認を行う。
⇒ボランティアの時と違い、就職したい気持ちが強く見え、本人の意識の高さを感じる事ができた。
≪採用まで≫～・職員として受け入れることの事業所内での意識統一
・町の相談担当保健師からの助言により、ジョブコーチを活用
・ジョブコーチ、家族、本人と２日間にわけ、ケア会議
≪工　　夫≫～・完成（仕事のゴール）を視覚的に提示。スケジュール表の活用
・得意な調理に携わる。
・振り返りのための日誌
・ジョブコーチの有効活用
・制度の活用（ステップアップ雇用制度）

二人を採用し、日常業務を行うなかで事業所内の課題が少し見えてきたこともある。
対人援助という臨機応変さが必要とされる環境の中で、指示を出す職員が知らず知らずのうちに臨機応変に対応することも求めてしまい、本人たちに伝わりにくい事があった。
二人にとって、働きやすい環境整備することは、職場内のサービスの向上となり、最終的には利用者の最大の利益になっていることと考えている。
事業所内で業務内容の振り返りを行ったことで、自分たちの普段の業務の課題を改めて気づかされるきっかけとなった。

今となっては、両者とも「別海厚生企業組合すずらん」にとってはなくてはならない存在となり、職場環境や一人一人の職員、利用者に良い影響を与えている。
本人も仕事に生きがいを持ちつつ、余暇活動もたっぷり楽しみ、幸せ感をもって生活している。

4　課題・これから

採用されたお二人はやりがいを感じている。しかし、同時に働く事のストレスも受けながら業務を行っている。職員の人事、利用者の死、業務上でのつまずきもあるが、自分の中で葛藤をし、折り合いをつけながら仕事を続けている。

～すずらんの一員として～
資格取得（ヘルパー2 級）を希望しており、取得に向けての準備を進めている。
これからも、苦労することもあるが、事業所と共に成長し一歩一歩前に進んで行きたいと思っている。

問合せ先：別海厚生企業組合すずらん　　TEL　0153-79-6230